

のびる 松っ子

～明るく 楽しく 前向きに～



令和4年8月9日
大村市立松原小学校
学校だより No. 12
文責：校長 永富伸介

今日は「県民祈りの日」です



夏休みも折り返しを過ぎました。今のところ、大きな事故や事件もなく、松原小の子どもたちも元気に楽しく夏休みを送っているようです。とは言うものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や猛暑等、現状はなかなか厳しいものがあります。それでも、8月1日(月)には久しぶりに大村市でも花火大会が開催されました。夜空を彩る5000発

の花火は、私たちの心も明るく照らしてくれたかのようでした。

さて、今年も、長崎市に原子爆弾が投下されてから77回目の8月9日がやってきました。松原小でも、これまで、DVDの視聴、千羽鶴作り等の学習や活動を通して平和の尊さや平和を守ることの大切さについて考えてきました。

亡き私の父は、長崎市浦上駅そばの自宅で被爆しました。当時、小学2年生でした。父親と当時中学生だった二人の兄は「三菱重工長崎兵器製作所」で働いている際に被爆し、帰らぬ人となりました。遺骨等は見つからなかったそうです。運良く生き残った母親、父、4歳だった弟の三人は、命からがら漫画「はだしのゲン」さながらに、松原に暮らす親類を頼って大村までやってきたのだそうです。普段は陽気な性格なのに、被爆体験の話題となると、口が重くなっていた父でしたが、あるとき酒を酌み交わしながら被爆体験からの生き様を教えてくれたことがありました。相当な苦勞をしてきたようでした。飲み水を得るためにお墓に供えてあった水まで飲んでしまったことなどぼつりぼつりと話す姿が忘れられません。今となっては遅いのですが、父の思いや経験をもっと詳しく聴いておくべきだったと今でも悔いが残っています。

今日は「県民祈りの日です」学校でも平和集会を行い、11時2分には全校で黙とうをしました。長崎県に育つ子どもの一員として、平和を担う意識を少しでも高められたのではないかと考えています。話を聞いたり、学習したりしたことの感じ方は人それぞれです。自分が受けとめたことを自分の言葉で誰かに伝えていければ、平和な世界にしていこうとする心が育まれていくのではないかと考えます。やはり、今の子どもたちが、平和の担い手なのです。

私にとっても、この8月9日を思うことは、自分の父親を思うことでもあります。皆さんにとっても、身近な誰かにこの日の記憶や思いがあることだと思えます。大切にしていきたいものです。